

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 坂下高等学校 学校運営協議会 (第2回)
- 2 開催日時 令和5年10月23日(月) 13:30~15:45
- 3 開催場所 坂下高等学校リハビリ実習室
開催にあたり、委員による授業参観を実施
- 4 参加者

会 長	小幡 隆徳	坂下まちづくり協議会理事
副会長	鎌田 則之	やさか観光協会会長
委 員	須栗 大	中京学院大学教授 連携推進部長
	村田 純一	坂下公民館長
	尾石 光正	坂下中学校長
	竹入 康治	坂下小学校長
	山内 尚子	本校同窓会長(欠席)
	長瀬 愛	中津川市社会福祉協議会地域福祉課
	桂川 容子	Charm Mates会員
	青山 里歌	本校保護者代表(欠席)
オブザーバー	森 益基	岐阜県議会議員
	成瀬 博明	中津川商工会議所専務理事
	岩久 義和	中津川市教育長(欠席)
	深津 広樹	中津川市定住推進部長
	廣瀬 竜也	坂下総合事務所長
学校側	田並 千穂	校長
	足立 幸司	教頭
	古田 和幸	事務長
	板津 裕也	教務主任
	勝川 誠	生徒指導部長
	三輪 祐太	進路指導部長
	岡本 拓郎	地域探究科主任
	林 尚志	地域連携コーディネーター

5 会議の概要（協議事項）

（1）学校評価アンケート結果、地域探究科、進路決定状況について

【学校長、各分掌長による説明】

- 意見1：「体罰について」「いじめへの対応」の項目でCとDに若干の数値があるがどう考えているのか。
⇒実際に体罰があるわけではないが、きつい言葉での注意や指導をそのように捉えている部分がある。職員に生徒への対応について今一度考えるように研修をした。いじめについてもアンテナを高くし、すぐに拾い上げ組織で対応している。
- 意見2：デュアルシステムに行ったところへ就職したいとの意見がある。生徒・企業の両者にとって良いことである。
- 意見3：地域探究科の探究活動について、来年度の3年生はどのような活動をするのか。
⇒3年生と2年生を一緒に取り組ませ、縦のつながりをつくる。
- 意見4：成果を地域へ発信する機会や、地域の方々を取り込む機会をたくさん作ってほしい。

（2）学校運営全般に関する意見交換について

- 意見1：来年度の募集状況はどうなっているのか。
⇒募集定員はまだ発表されていないが、この地域の中学生徒数は激減しており、本校についても影響を受ける可能性がある。今後もマルシェなど、生徒が実際に活動している姿を中学生やその保護者に見てもらいたいと考えている。
- 意見2：地域の課題を生徒がつかみ、多様な方法を取りながら課題解決に取り組んでいる。目的意識を持って行っており、生徒が生き生きとしている。公民館と連携した事業も2年目を迎え好評であり、異世代間の交流をさらに続けてもらいたい
- 意見3：外部とのつながりが生徒にとって良い経験となる。課題意識を持たせ、現実的に考えさせていけばいくほど、真剣になっていく。生徒は穏やかで安心して授業に臨んでいる。
- 意見4：生徒の良い姿を見せてもらった。服装からも清潔感がみられ、生徒は生き生きとしていた。生徒の取り組む姿勢や熱量は今日だけでできるものではない。日頃の活動の成果である。
- 意見5：生徒は授業に目的意識を持ち、また自己決定を大切にしながら取り組んでいた。楽しいと感じながら活動しているようであり、この姿勢は社会で働く上で大切である。一つのテーマに対して周りとの協働して取り組むことが重要である。
- 意見6：地域探究科の設置説明を聞いたときはどうなるのか不安な部分があったが、生徒の姿を見れば正解であったとわかる。地域と連携して取り組んできた経験が実を

結んでいる。自信を付けて頑張っている生徒が多く、自己肯定感を育む唯一無二の学校ではないか。

意見7：地域企業を紹介するカレンダー作成の取組は非常にうれしい。飲食店マップについても、海外からの観光客が増えている現在、英語なども入れて制作してもらいたい。

意見8：生徒が授業に前向きで、穏やかである。学校を見るときは生徒を見れば分かるというが、本校は生徒に寄り添った教育活動ができています。デュアルシステムは進路に向けて自分探しをするカリキュラムとして評価できる。福祉科のタッチケアを体験したが、社会に出て即戦力となる人材育成がされている。

(3) オブザーバーから

意見1：生徒の様子が以前と変わった。授業中も積極的に前を向いており、挨拶も増えた。地域企業のカレンダーの作成など成果物としては非常に良い。介護福祉士等国家資格を持つことは大切であり、ぜひ本年度も100%の合格をさせてほしい。探究活動の北恵那鉄道に関するゼミでは下付知まで考えてほしい。地歌舞伎についても坂下の歴史を掘り起こしてほしい。

意見2：生徒の生き生きとした表情を見ると地域探究科にしてよかったと感じる。中津川市は以前から福祉が進んでいる町である。地元出身の福祉分野で活躍する人材を活かし、さらに本校から福祉の町としてアピールしてほしい。また、地域探究科での学習を突き詰めて、起業精神を養ってほしい。

意見3：生徒にやる気があり、明るい雰囲気である。アンケート結果では保護者からの評価も高く、学校方針の方向性は間違っていない。市の域学連携と地域探究科は目指すところに共通点がある。自分の町に興味・愛着を持ってもらうことは大切である。生徒にいろいろな課題を与えて、市ともコラボしながら取り組めるものがあると良い。

意見4：デュアルシステムや課題解決力を培うことなどで、自分の適性、将来の方向性が学べている。来年度は地域探究科最初の卒業生が出るが、地元に残る人材育成に期待したい。

6 会議のまとめ

- (1) 授業参観により、生き生きと生徒自ら主体的に活動している様子が評価された。福祉科に限らず地域探究科についても地域と連携しての教育活動等が形となってきており、その教育活動が認められてきている。
- (2) 地域との連携をさらに進め、生徒が活動している場면을地域の方々や中学生に知ってもらうことにより、本校の魅力を効果的に発信していきたい。